



音楽運動



日本音楽協会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3丁目10-15 富士ビル505号室 発行人 松本敏之
TEL 03-3221-1821 FAX 03-6369-3057 URL <http://nichionkyou.org> Email nichion@yomogi.or.jp

会員外の仲間も迎え、22人

日音協セミナーと若い会員の交流会

日音協は、2月21日から23日まで、東京都小平市の学園坂スタジオで、日音協セミナーを開催し、13人が参加しました。

また、同じ日程同じ会場で、若い会員の交流会を開催し、8人が参加しました。22日夜のミニコンサートにはこのほかに1人が参加しました。いずれも参加者数には、事務局と会員外の方を含みます。

21日は、前泊のための懇親交流会だけ。22日午前中は、講師の港大尋さんのご講演を受けました。22日午後と23日午前は、日音協セミナー、若い会員の交流会、それぞれのカリキュラム。22日夜は、ミニコンサートとして、14グループまたは個人が演奏しました。23日午後は、成果発表と講師の講評。

そして閉会式で参加者全員が感想を話して終了となりました。ここで話された感想のうち、3人の感想を要約してご紹介します。

■休符をうまく使うこと

甲屋文史さん(セミナー：青森) 港さんの話からリズムも突き



参加者一同 パチリ

詰めれば休符をうまく使うことだし、それが大事だと思いましたが、三田地望美さんの「アニメマールばあちゃん」は最初に東北ブルックで聞いた時、昨日、今日と進化しているのがすごいです。望美さんには他にもいい曲があるのでぜひ来年も来てほしいし、若い皆さんのそれを一層引き立てる感性や伴奏も今から楽しみです。私も負けずに日音協らしくない歌も含めてどんどん歌っていきます。

■コールアンドレスポンス

田中珠萌さん(若い会員：東京) 鶏の声など自由にやらせてもらって、力量のあるお兄さんがたにちゃんと形にしてみたいました。久しぶりに日音協に参加して、先輩方がリズムの効果なのか、明るく踊るようにうたっていて、よかったです。港さんにコールアンドレスポンスの話聞いて、これまでことばをはっきり表現することに重きを置いてきましたが、余白を活かして、聴いている人から私への矢印を意識することをまなびました。

■生活から生まれ出た音楽

小田祥子さん(セミナー：東京) 成果発表を聴いて、日本中の、そういう思いをもっているけどもうまく言葉にできていない人たち、そういうことを言いたか

音楽祭千葉県実行委を発足



実行委員長に連合千葉小谷会長

第53回はたらくものの音楽祭の成功に向け、2月26日、千葉市中央区の連合千葉第2会議室で、第53回はたらくものの音楽祭第1回千葉県実行委員会が開催され、連合千葉と同構成組織、日音協千葉と日音協幹事会から20人が出席しました。

冒頭、連合千葉小谷裕会長は、「6月にはたらくものの音楽祭が、千葉で開催される。中央の主導で、みなさんのご協力をいただきながら、成功させたい」とあいさつしました。

議事では、小谷会長を実行委員長、根本日音協千葉事務局長を事務局長に、そして連合千葉(連合千葉構成組織)と日音協千葉県支部とで第53回はたらくものの音楽祭千葉県実行委員会を結成し、2020年6月13日、14日に千葉市中央区の千葉県教育会館ホールで開催する第53回はたらくものの音楽祭を地元から支えることを確認しました。また、音楽祭のテーマ、千葉県実行委員会企画、プログラム広告協力要請などを議論しました。

(松本敏之)



森組のワークショップ

ったのよって、共感するのではないかと思えます。心からこれを言いたいところまでやっているから創りあげられるのでしょう。音楽は既成の曲を一生懸命練習して、うまく楽譜通りに表現するものと思っていました。生活から生まれ出た、密着した音楽は衝撃的で、今までの考えが覆りました。

「2020 原発のない福島を！ 県民大集会」の中止のお知らせ

3月14日に予定されていた「県民大集会」は、新型コロナウイルスの国内発生を踏まえ中止となりました。14日の集会は、「安心・安全」を考慮し、「不特定多数が集まる集会是、現在の情勢を鑑みて中止する決断」に至ったとのこと。準備に携わっていた福島県支部の皆さんや参加を予定していた皆さんなど、今後ともよろしく申し上げます。(佐藤)

ケチャとポリリズムとコール&レスポンス 港大尋さんが刺激的な提起

日音協セミナーは参加者13人で、講演に引き続きワークショップが開かれ『ケチャ』や『ポリリズム』のリズム、コール&レスポンスについて講義を受けた。

『ケチャ』はバリ島などで歌われている民族音楽で、二手に分かれて八分音符の4連で表の拍と裏の拍を交互に「チャッ・チャッ・チャッ・チャッ」から「チャッ・カ・チャッ・カ」を繰り返し声に出すことやこのリズムを応用して、二手に分かれたところからそれぞれ二手に分かれて4つのグループで「ゲ・ン・パ・ツ・ハ・ン・タ・イ」を一文字ずつ順に回すということに挑戦。

『ポリリズム』では八分音符の4連と3連の掛け合わせ。八分音符の4連は「に・ん・じ・ん」3連は「ご・ぼ・う」4×3で12拍毎ににんじんの「ん」とごぼうの「う」が揃うという計算にもなるが、二手に分かれた一方が「に・ん・じ・ん」もう一方が「ご・ぼ・う」を繰り返す。応用編では4連で「げ・ん・ば・つ」を3連で「や・め・ろ／と・め・ろ／す・ぐ・に／と・め・ろ」などに挑戦。経験したことのないリズムなので戸惑いから始まったものの声を出してみるとなんとなく一体感と気持ちの高まりを感じるところがあった。

『コール&レスポンス』は、歌い手と聞く側の掛け合いだと思っていたが、その条件として呼びかけに応えてもらうには呼びかけに呼んでもらうだけの休符が必要だということ。そのころは、絵画にも余白が必要なように休符を余白ととらえること。なるほど、労組の機関紙を作るときも「余白は必要」と言われたような気がする。(ちょっと違うか。)

その後、東京都支部の森理子さんをリーダーとする森組と新潟県支部の高野直美さんをリーダーとする高野組に別れて、港さんの講義を元に、森組は『安倍の嘘はもう聞き飽きた』、高野組は『大人わらべうた』を作品として仕上げた。

音楽を聴くには誰かが作った音楽をダウンロードして聞くのが現代の主流。でも音楽はもともと誰のものでもなく自然に生まれて共有されてきた時が遙か昔から続いていた。その音楽がいつのころか



らか一握りの誰かのものにされ、世の中を支配する道具にもされてきた。クラシック音楽のクラシック（Classic）にはクラス（階級）の意味もあると港さんが話されたが、優雅な宮廷生活の陰には虐げられた民衆の歴史があることを思うと、いまこの瞬間の世の中の動きや労働・生活の不条理を自分たちの手で作品に仕上げ、発信し仲間とつながりあって抗っている日音協の音楽運動に音楽を手にして闘う必然性を感じた。といったら言い過ぎか。

(担当幹事：後藤)

港さんの講演は、時には言葉で、時には演奏で、とても示唆に富むものでした。講演の感想を、このことでしたが、私の印象に残った内容を備忘録的に書いてみたいと思います。一部私の創作が入りこんでいますがご容赦ください。

「クラシック」は「古典」などと訳されるが、「クラス（階級）」の音楽ということであり、作曲家―指揮者―演奏者―聴衆という階層構造に象徴される。楽譜や指揮者の解釈はともすれば上からの指示であり、与える側と与えられる側に分断され、自由からかけ離れていく。一方で、フリージャズから想起されるような、演奏者各自が好き勝手に演奏するような音楽は果たして自由なのか。

こういった音楽のあり方は、社会のあり方とも関連付けられる。前者は権力の横暴に、後者は息苦しい自己責任論に。こういった抑圧や閉塞から抜け出すために、音楽は何ができるのか。

楽譜の束縛から抜け出す手近な方法としての替え歌、異なるリズムがずれながら重なるポリリズム、他者の参加を促すコールアンドレスポンスなど、手法としてのヒントはあり、それぞれが主張しながらもお互いに認め合う、そんなあり方を音楽を通じて表現していくことができるのではないかと。

私の感想を少し。音楽って自己完結した芸術作品ではなくて、あくまで開かれた双方向的な表現なんだと。自分の演奏に頭を抱える日々ですが、少し意識が変わったように思います。ありがとうございました。(秋田：木下知久)



高野組のワークショップ

若くは若い会員の交流会

「2020若い会員の交流会」は、過去最多の8名(非会員1名・事務局1名含む)の参加者で開催されました。今回は、参加者がこの2日間取り組みたい曲として、オリジナル曲2曲を含む4曲を持ち寄りしました。

「春」(詩・曲||坂口珠之)は、参加者の田中珠萌さん(東京)の妹・坂口珠乙さんのオリジナル曲。「全米」ならぬ「全姉が泣いた最高傑作」(田中珠萌さん談)であり、「春」が持つ「暖かさ」を優しく描いています。

「私は忘れない」(詩||杉五郎、曲||市野宗彦)は、もちろん日音協ではおなじみの曲ですが、今回は趣向を変えてサンバ風にアレンジしてみました。最後のリフレインで観客を巻き込み、盛り上がりしました。

「アニマルばあちゃん」(詩・曲||三田地望美)は、参加者の三田地望美さん(岩手)のオリジナル曲。さまざまな動物と比べながら、元気なおばあちゃんを描いています。朝のニワトリの鳴き声から始まり、風、夜、そして再び朝へ。1日の時間の経過が木下さん(秋田)のピアノとともに感じられます。

Official髭男dismの「宿命」(詩・曲||藤原聡)は、2019年『熱闘甲子園』テーマソングで



サルサの舞姫も踊る

千葉音楽祭では、「若い会員の交流会」に参加できなかった仲間も交えて、「若い会員」の力を思う存分に発揮したパフォーマンスにご期待ください。(担当幹事・竹内崇史)

あり、仕事の関係で参加できなかった青木瀬奈さん(長野)のリクエスト曲。スケジュールの関係で多くの時間を割けなかったので、引き続き仕上げていきます。3日目(2月23日)午後の成果発表では、この中の「春」「アニマルばあちゃん」「私は忘れない」の3曲を披露しました。8人が一堂に会するのは難しかったのですが、6月の千葉音楽祭に向けた練習を兼ねて、5月に大宮で再会することを確認しました。

安倍の嘘はもう聞き飽きた

森、松崎、甲屋、細川、長島、松本

ベラベラベラベラ シャべるけど

5 安倍のウソはもう聞きあきた 安倍のウソはもう聞きあきた

9 ウソつき内かくもうやめろ ウソつき内かくもうやめろ

17 安倍のウソはもう聞きあきた

21 安倍のウソはもう聞きあきた

25 安倍のウソはもう聞きあきた

29 ウー ウー アー

33 ウー ウー アー

37 やくそくなんかまもったことない それはほんとー

YouTubeにUP ぜひご覧ください

セミナー成果発表

森チーム

『安倍の嘘はもう聞き飽きた』
<https://youtu.be/zHtSXfoeWIY>

高野チーム

『大人わらべうた』
<https://youtu.be/pdOQ5AAzcX8>

若い会員の交流会成果発表

『春』
<https://youtu.be/H8nYepkS3yk>

『アニマルばあちゃん』
<https://youtu.be/BaZLOjcvZ3k>

『私は忘れない』
https://youtu.be/5IRR_Zcl3HM

ミニコンサート全員合唱
 『ひかりとともに』
https://youtu.be/SU8_4oGyP24

『なぞなぞサルサ』
<https://youtu.be/b7bDPfI2RWY>

『このうたのように』
<https://youtu.be/ergfnRLNroU>

『裸のタロウさん』
<https://youtu.be/Aqhw7FZKyrw>

『タネのうた』
<https://youtu.be/7DS8k-ZYc6E>